

令和3年度 県立阪神昆陽高等学校学校評価アンケート（生徒・保護者）

- 1 実施日 令和3年12月
- 2 評価段階 4：できている 3：おおむねできている
2：あまりできていない 1：できていない
- 3 総合評価 A：達成できている（3.5 < A ≤ 4.0）
B：できている（3.0 < B ≤ 3.4）
C：努力を要する（1.0 < C ≤ 2.9）

区分	評価の観点	生徒		保護者	
問1	教師は、学習活動のねらいを具体的に説明している。	3.1	B	3.0	B
問2	教師は、いじめの未然防止やいじめが起きた時に、適切に対応している。	3.1	B	3.0	B
問3	教師は、授業で不必要な時に、スマホを触っている生徒に対し粘り強く指導している。	3.0	B	2.7	C
問4	教師は生徒の理解度に合わせた授業を行っている。	3.2	B	3.1	B
問5	困ったときに相談できるような体制が学校にある。	3.2	B	3.2	B
問6	学校は、地域などの外部人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を提供している。	3.3	B	3.2	B
問7	学校は、授業や行事などで、特別支援学校との共同学習の場を設けている。	3.2	B	3.4	B
問8	学校は、両校の取組についてホームページなどを通じて発信している。	3.1	B	3.2	B
問9	教師は、生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	3.1	B	2.9	C
問10	活動顧問は、生徒の主体性、自主性を尊重した部運営を心がけている。	3.0	B	2.9	C
問11	教師は、生徒の話を丁寧に聞くとともに、生徒を否定したり、自説を押しつけたりしていない。	3.2	B	3.1	B
問12	教師は、生徒が考え行動する機会を作り、働きかけている。	3.2	B	3.1	B
問13	学校は、生徒会活動の取り組みを支援したり、生徒会役員以外の生徒を啓発したりしている。	3.1	B	2.9	C
問14	学校は、地域貢献やボランティア活動をする生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	3.1	B	3.0	B
問15	学校は、保護者と連携し教育活動にあたっている。			3.0	B

県立阪神昆陽高等学校 令和3年度 学校評価結果（教員）

理念

阪神昆陽の両校がともに助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会を設定し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざす。

教育目標

- A** 生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる多部制単位制高等学校として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む。
- B** 人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成する。
- C** 阪神昆陽特別支援学校が同一敷地に設置されたメリットを最大限に生かして交流及び共同学習を推進し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展する礎となる学校をめざす。また、両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。
- D** 学校評議員制度や高校生ふさと貢献活動事業、特別支援学校交流・体験チャレンジ事業などを活用して、伊丹市池尻地区や尼崎市西昆陽地区など、学校周辺の地域と連携した教育活動を推進し、地域に開かれた、地域に愛される学校をめざす。
- E** 「教育は人なり」という言葉があるように、両校の教職員は、教育の専門家としての使命感と高い倫理性を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。また、専門性と実践的指導力の向上や、社会の変化に対応した教育観を培うことをめざして、研究と修養に努める。

評価点：十分できている=**4**、おおむねできている=**3**、あまりできていない=**2**、できていない=**1**

総合評価：**A** 達成できている（ $3.5 < A \leq 4.0$ ） **B** できている（ $3.0 < B \leq 3.4$ ） **C** 不十分である（ $1.0 < C \leq 2.9$ ）

*行動指標として複数の具体例を示しています。その一つ一つに当てはまるか否かではなく、指標を参考にして実践目標に対する自己評価を総合的にご判断ください。

	評価の観点		実践目標	No.		関係する 教育目標	R2		R3		増減
I 理念・ 経営 方針・ 重点 方針	円滑な学校運営	学校の理念、及び基本方針を理解している。	理念を踏まえて、学校経営の基本方針を、自身の学校教育活動に反映させる。	①	・自分の業務を、学校の理念・方針の中に位置づけることができている。 ・学校の理念・方針をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A、B C、D E	3.2	B	3.2	B	0.0
		自分が所属している部・年次の経営目標を理解している。	部・年次の経営目標に沿って、自身の教育活動に反映させる。	②	・自分の業務を、部・年次の目標・方針の中に位置づけることができている。 ・部・年次の目標をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A、B C、D E	3.2	B	3.2	B	△0.1
	働きがいのある学校づくりと教員の資質向上	働きがいのある学校づくりを実践している。	校務・業務の適正化により、生徒と向き合う時間を確保するとともに働きがいのある学校づくりに努める。	③	・働きがいのある学校づくりのために、業務改善に取組、メリハリある勤務に努めている。 ・水・金曜日はおおむね定時に退勤している。	E	-		3.2	B	-
		人間性と教育観の涵養に努め、教員としての資質向上を図っている。	豊かな人間性の涵養、専門性と実践的指導力の向上、社会の変化に対応した教育観を培うことをめざし研究と修養に努める。	④	・専門性を高める研究、ボランティア、読書、スポーツ、旅行など、人間性を豊かにし、資質向上につながる時間を作っている。	E	3.1	B	3.2	B	0.1
	危機管理体制の整備	本校の危機管理体制、いじめ防止基本方針を理解している。	基本的な考え方・指導体制、組織的対応・重大事態の対応ができる。	⑤	・危機管理マニュアルが適切に保管され、自分の関係する部分はおおむね理解できている。 ・いじめの未然防止やいじめが認知された際に、基本方針に沿った対応ができる。 ・様々な研修を通じて学んだことが、生徒・保護者対応等の初期対応に生かしている。	B、D	3.2	B	3.1	B	△0.1
		日頃より関係機関との連携を密にし、様々な危機に対応できる体制を整えている。	コーディネーター・キャンパスカウンセラー・外部関係機関（警察・消防・病院・S W・福祉支援員 等）との連携ができる。	⑥	・特別な支援、あるいは指導を要するケースについて、関係職員との情報共有(報連相)を心掛けている。	A、C	3.5	A	3.5	A	0.0

※裏面に続く

	評価の観点		実践目標	No.	行動指標	関係する 教育目標	R2		R3		増減
Ⅱ 魅力ある学校・特色ある学校への取組	授業	授業規律の確保に努めている。	落ち着いた授業を行うため、ルールやマナーを生徒に周知徹底させる。	①	・授業で不必要な時に、スマホを触っている生徒に対し粘り強く指導を行う。	A、E	3.3	B	3.3	B	0.0
		生徒の力を多面的に評価することに努めている	令和4年度からの全科目定期考査廃止に向け、評価方法を検討し構築する。	②	・評価観点・規準を検討し生徒に示すとともに、令和4年度から実施する評価に向けて準備している。	A、E	-	-	3.0	B	-
		授業力の向上に努めている。	大学・短大、専門学校、就職など、個々の進路実現のため生徒のニーズに合わせた授業を行う。	③	・生徒の理解度に合わせた授業を行っている。	A、C E	3.2	B	3.2	B	0.0
	通級・レジリエンス	特別な支援を要する生徒に対する本校の取り組みを理解している。	通級による指導、自殺防止の取り組み等を理解し、実践する。	④	・高校における特別な支援の必要性を理解し、研修を活用している。 ・特別支援学校と連携し、困難さを感じている生徒に対する支援に取り組んでいる。	A、B C、D	3.1	B	2.8	C	△0.3
	特別支援学校との連携	学校設定教科「共生社会と人間」を適切に実施している。	ノーマライゼーションの進展に寄与する人間観・社会観を醸成する。	⑤	・特別支援学校、地域の人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を設定している。 ・外部機関と連携して授業を進め、実社会で学ぶ機会を設定している。	A、B C、D	2.8	C	2.7	C	△0.1
		交流及び共同学習を適切に実施している。	授業、行事等、学校教育活動の様々な場面で、両校の生徒がともに活動する機会を設定する。	⑥	・共同の学習活動に向け、両校の担当者が定期的な打ち合わせ、情報共有を行っている。	A、C D	2.8	C	2.9	C	0.1
		高校・特別支援学校両校の取り組みを発信している。	両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。	⑦	・両校の実践についてHPで情報を更新し、保護者、地域へ情報提供している。 ・SPIRIT等の記録を作成し配布する。 ・各説明会等で、両校の取り組みの内容を紹介する。	A、C D	2.9	C	2.9	C	0.0
Ⅲ 自尊感情の醸成	自己効力感	生徒の多様な能力・適正・興味に即し、自ら学ぶ学習意欲を喚起している。	体系的なキャリア教育を進め生徒の進路意識を高めるとともに、必要に応じて補習、個別指導等を実施する。	①	・年次、進路指導部や部顧問とも生徒情報を共有し指導にあたっている。 ・生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	A、C	3.3	B	3.3	B	0.0
		部活動を充実させようと努力している。	部活動の意義を理解し生徒の活動を支援する。	②	・「いきいき運動部活動(4訂版)」をふまえて活動をおこなっている。 ・生徒の主体性、自主性を尊重した部運営を心掛けている。	A、C	3.1	B	3.1	B	0.0
	自己肯定感	カウンセリングメインの視点を活かす指導で生徒や保護者対応を行っている。	他の教員と、本校の生徒指導について共通理解し、同一歩調で指導にあたる。	③	・生徒・保護者の話を丁寧に聞くように意識している。 ・生徒を否定したり、自説を押しつけたりしないように意識している。	A、C	3.6	A	3.6	A	0.0
		生徒が自分の行動に責任を持つような取組を行っている。	生徒が自ら考え、行動を選択できるように働きかけている。	④	・生徒が考え行動する機会を作り、働きかけている。	A、B C	-	-	3.2	B	-
	自己有用感	生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	生徒会活動を理解し、その活動を支援する。	⑤	生徒会活動について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A、D	3.0	C	3.0	B	0.0
		生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	高校生ふるさと地域貢献活動、ボランティア活動等を理解し、その活動を支援する。	⑥	地域貢献活動、ボランティア活動等について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A、D	2.9	C	2.9	C	0.0

令和3年度 学校評価について

県立阪神昆陽高等学校

■今年度について

本校の教育目標に基づき、今年度は新たに学校評価を、生徒・保護者にも実施した。また、各評価に総合評価を取り入れた。

魅力ある学校づくり・特色ある学校へ取り組みは自己評価がCであった。これは交流及び共同学習の取り組みが積極的になされているにも関わらず、職員間で周知されていない結果と思われる。学校設立の理念「交流及び共同学習」に対する意識が低いことが課題である。

■生徒・保護者アンケートについて

生徒の授業アンケートから、昨年度より生徒は学びたいという意欲、満足度が概ね20%高く、90%以上の生徒が主体的に学習に取り組んでいることがわかる。

これは来年度からの全科目定期考査廃止に向け、今年度多くの定期考査を廃止し、日々の授業での取り組みを評価する方法を先行実施したことによることが考えられる。教科担当者で評価について検討し、評価方法について生徒と教員が共有することで、授業に対するモチベーションが高くなったと思われる。

生徒の学校評価アンケートは、全ての項目がBで概ね学校の対応を肯定的に評価している。

また、保護者アンケートで低い評価があるのは、アンケートの回収率（11%）から見て、生徒と保護者の間に学校生活の話題があることがうかがえる。

■学校評議員より

- ・異動により転勤してきた教職員にも本校の教育理念を伝えるとともに取り組んでいく教職員がどのように成長していくかが、生徒の成長にもつながる。
- ・両校を通じて様々な取り組みをしているが、それが魅力ある学校づくり・特色ある学校への取り組みにつながらない原因は何か。
- ・課題は教職員の連携・協働・生徒の自尊感情をどう育むか。
- ・アンケート項目をもっと絞り込み、焦点化を図り、よりよい学校教育につなげる。

■来年度に向けて

・今回の学校評価について教員が意見交換する場を設け、学校目標・課題の確認を行い、育てたい生徒像の共有し、評価項目の精選を行う。

・教職員間の連携・協働を通して生徒の自尊感情をどう育むかということ、年次・各部署の現状、課題を学校として共有し、課題解決を図る。